

# しんあい

## 季刊

2019年(令和元年)9月20日発行 第111号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人  
**多摩同胞会**

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10  
TEL042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、  
ブログを毎日更新しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>  
をぜひご覧下さい!



2019年6月28日東京競馬場で自衛消防訓練審査会が開催されました。出場した泉苑・しらとり隊が優勝、あさひ苑隊が準優勝しました。法人理念「常に防災を心がけ火を出さない」の実践の賜物です。



### 泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター  
泉苑ケアセンター

### 緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- あさひ苑
- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑  
高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市高齢者住宅うらら多摩

### 神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者  
在宅サービスセンター
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ  
相談センター

### 児童福祉

- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・母子生活支援施設網代ホームぎずな
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

◆ 社会福祉法人を考える2

◆ 平成30年度事業報告

◆ 多摩同胞会の地域公益活動

◆ 施設だより  
「令和の秋は…」



# 社会福祉法人 を考える 2

—平成30年 間の変化—〔財源〕

理事長 鈴木 恂子



平成12(2000)年4月から老人福祉法の大半の事業は、介護保険法に基づくサービス提供事業に移行しました。老人福祉法で介護を必要とする高齢者の生活を保障する特別養護老人ホームは介護老人福祉施設として、介護の世話を提供する施設になりました。要介護度ごとに設定された日額の報酬をご利用者に代わって代理受領する仕組みです。  
在宅三本柱といわれたショートステイ・デイサービス・ホームヘルプをはじめとする、ほとんどの高齢者の在宅サービスも介護保険制度に位置付けられ、短期入所生活介護・通所介護・訪問事業という表記にかわりました。在宅は居宅に変更されました。

介護保険給付はすべて日々の実績となり、不安定な収入財源になりました。  
当法人は養護老人ホーム、母子生活支援施設、一部の市委託事業を除き、ほとんどが介護保険事業に移行しました。  
今回は泉苑を例に、平成元年から30年度、そして制度移行の境となる平成11、12年度の財源の変化をまとめました。  
制度の変更により、施設運営は大きく変化しました。なかでも職員体制に与える影響は大きく、今回は職員の変化をテーマにする予定です。

年 度	平成元(1989)年度	平成11(1999)年度	平成12(2000)年度	平成30(2018)年度
収入の変化	老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム／高齢者在宅サービスセンター(国・都・市の税) ・措置費(国1/2、都1/4、市1/4)特養1人1ヶ月単価(事務費+事業費)事務費は国基準職員配置人件費等、事業費は利用者生活費。利用者は本人・家族の収入に応じ費用徴収があった(措置先の自治体に納付)。 ・東京都補助:職員増配置(3:1)や医療対応等の援護費と公私の給与格差を是正する事業。 ・受託費:市による在宅サービス事業委託費=市+都+国。都は独自に高齢者在宅サービスセンターとしての単独補助を市に行った。		介護保険法に基づく介護老人福祉施設／各種居宅介護事業(保険給付) ・介護報酬:特養は措置費をベースに介護度別日額に移行(職員配置3:1に改善。非常勤の常勤換算を可とした)／居宅サービス事業 ・利用者負担:生活費(食費・居住費・日常生活費)。低所得者に軽減制度あり。 ・東京都補助:都独自の補助は全て解消。経営支援補助金として残るのみ。 ・受託料:市の在宅サービス事業の大半は介護制度の居宅サービス事業へ。支援センター(H18～地域包括支援センター)が残る。	
収入構成比の変化				
収入実績の変化	措置費(特養) 276.3百万円 利用者負担 0.0百万円 補助金収入(都:特養) 102.7百万円 受託収入(市:センター) 105.3百万円 その他 19.4百万円 収入計 503.7百万円 人件費 327百万円(64.9%)	措置費(特養) 351.6百万円 利用者負担 0.0百万円 補助金収入(都:特養) 107.4百万円 受託収入(市:センター) 428.4百万円 その他 6.2百万円 収入計 893.6百万円 人件費 665百万円(74.4%)	介護報酬(特養+居宅サービス+居宅支援) 525.4百万円 利用者負担(1割負担・食費・日常生活費) 136.7百万円 補助金収入(都:特養経営支援) 21.9百万円 受託収入(市:センター・在宅介護支援センター) 286.1百万円 その他 4.7百万円 収入計 974.8百万円 人件費 716百万円(73.5%)	介護報酬(特養+居宅サービス+居宅支援) 399.9百万円 利用者負担(1~2割・食費・居住費・日常生活費) 148.6百万円 補助金収入(都:特養経営支援) 6.4百万円 受託収入(市:地域包括支援センター) 60.5百万円 その他 9.9百万円 収入計 625.3百万円 人件費 472百万円(75.5%)
事業	特別養護老人ホーム センター(ショートステイ・デイサービス(基本事業・機能訓練)入浴サービス・痴呆性高齢者介護相談)	特別養護老人ホーム センター(ショートステイ・デイサービス(基本事業・機能訓練)・痴呆性デイホーム 入浴サービス・ホームヘルプ・訪問食事) 在宅介護支援センター	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) 居宅:短期入所生活介護・通所介護/居宅介護支援 在宅介護支援センター・生きがいデイ 生活支援ヘルパー・訪問食事・入浴サービス B型機能訓練	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) 居宅:短期入所生活介護・通所介護(予防)/ 地域密着:認知症通所介護(予防) 居宅介護支援・介護予防支援 地域包括支援センター・地域デイ・介護予防 食事サービス
解説	平成元(1989)年12月ゴールドプランが発表となり、特養のニーズの高まりとともに在宅サービスの充実が自治体ごとに進められるようになった。東京都は独自に高齢者在宅サービスセンターとして在宅サービスの一体的提供を推進した。特養に対しても都独自の職員増配置と準公務員並み給与の補助事業を行った。	認知症(痴呆症)対応を含め、在宅サービスが拡充した。都と市による高齢者在宅サービスセンターは、特養に匹敵する予算規模となった(自治体の施策による格差あり)。府中市の場合、6つの福祉圏に施設や在宅サービスセンター拠点が計画的に整備された。	東京都の独自施策により向上した職員体制や給与水準は一気に全国一律の介護報酬のみとなった。市の委託事業については、経過措置により通所介護の職員体制等は一部維持された。利用者負担は急増したが、収入が高く措置費の費用徴収段階が高かった一部の方は負担が減少した。	平成15(2003)年度から基本報酬から個別の加算へと移行(平成12年度当初から平成30年度の基本報酬は月額約4.4万円減・要介護度5多床室の場合)。在宅サービスは介護報酬に100%移行し、地域包括支援センターに介護予防等の事業が委託される。平成28年度から介護報酬の利用者負担は一部の方は2割になった。

※特養:特別養護老人ホーム/センター:高齢者在宅サービスセンター ※会計基準 ~平成11年度:経理規程準則/平成12年度~平成23年度:指導指針/平成24年度~:新会計基準 資料協力・編集:事務局 青木志乃

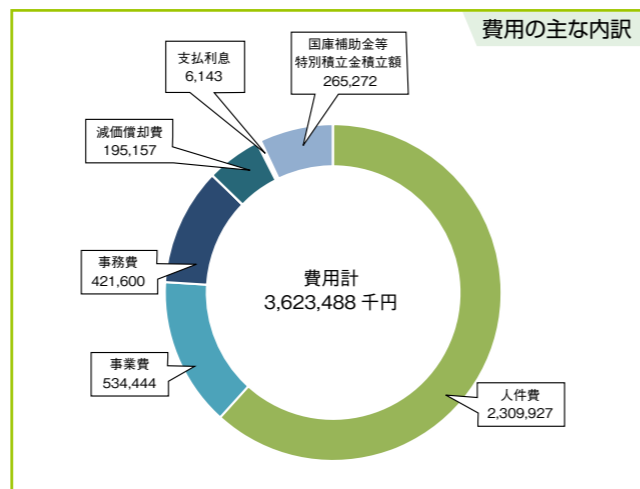
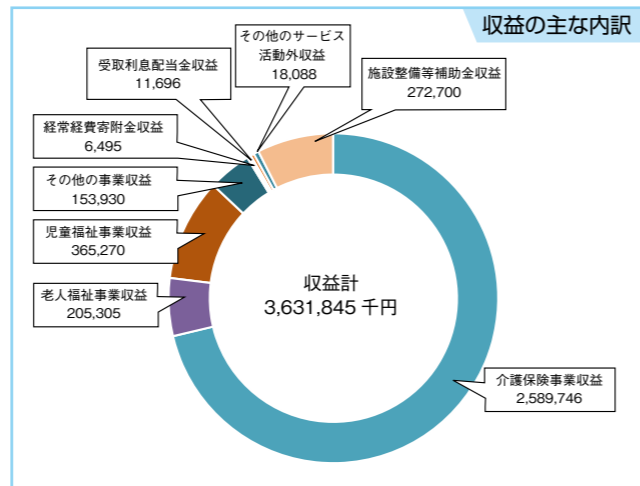
## 平成30年度 事業活動計算書の概況

平成30年度決算は、昨年度に引き続き厳しい結果となりました。収入については、法人全体として13,120千円（約△0.39%）の減収となりました。介護保険事業収益は主に平成30年度の報酬改定の影響により通所介護の収益が大幅減となったことと指定管理料の減、老人福祉事業収益はケアハウスの減収による減、児童福祉事業収益は措置費の増が少なかったことによる減と、理由はそれぞれに異なりますが3事業収益全てが減収となりました。右のグラフのとおり、法人の収益の78%を占める介護保険事業収益では、前年比△5,706千円の減収でした。

一方、支出は、8,780千円（約0.26%）の増でした。サービス活動費用計のうち人件費が69.1%を占めています。人件費は非常勤職員賃金が大幅増となり、採用難を反映しています。主にご利用者の生活にかかわる給食費や教養娯楽費等を含む事業費はサービス活動費用計の16.0%を占めています。電気料金については、11月に電力会社の見直しを行った施設では減または微増にとどまりました。サービス活動費用計の12.6%を占める事務費は主に新しい業務システム（CAREKARTE）の導入に伴うiPadやWi-Fi等の購入により前年度より増となりました。

収入が減、支出が増のため、経常収支差額は794千円と前年度比△21,573千円の大幅減となりました。

網代ホームきずなの第2期工事完了により、貸借対照表の固定資産（建物）や国庫補助金等特別積立金は増となりました。平成30（2018）年度に続き、2019年度は収支の改善が最大の課題です。4月から本格稼働を開始したCAREKARTEを活用した加算の新たな算定や、広報の強化や地域のニーズに応えるサービスを一層充実することで各事業の利用率の向上につなげること等の取り組みを通じて収益の改善をはかります。ペーパーレスの推進や、共同入札によるスケールメリットを生かしたコストダウン等に引き続き取り組み、費用の削減を目指します。



### ■各施設の取り組み（児童・母子施設）

網代ホームきずな…平成28年度から開始した施設整備（4ヶ年計画）は第2期改築工事が完了し、3月に新棟に全面移転しました。毎月の母親懇談会やアンケート等を通じて意見を聴き、新棟での生活や居場所づくりを進めました。運営協議会等の関係機関、自治体および地域ボランティア団体との連携に取り組みました。

しらとり…地域公益活動として中学生対象の学習サロン「SKY」に延約150名の参加があり、うち2

名の受験生は見事に目標の高校に合格しました。利用者支援は、毎月各部署と自立支援計画を協議し、世帯支援にチームで取り組みました。関係機関へのPR、ホームページ等を活用した広報に積極的に取り組み、緊急一時保護やトワイライトステイ、支援センターの企画講座等の参加者増につながりました。

たっち…相談事業を中心に各事業の連携を行い、利用者支援の充実を目指しました。各講座等にて利用者アンケートを行い、結果を公表したうえで、事業運営の向上に反映しました。防災防犯は、毎月の訓練のほか、マニュアルの検討、研修等を実施しました。



### ■職員状況

平成30年度末の職員数は正職員290名、準職員は常勤換算223.6（実数421名）です。

正職員の平均勤続年数は10.8年、10年以上勤続が49.7%を占めています。

平成30年度中に入職者は26名、離職率は5.48%（平成29年度は7.56%）です。定年退職者は全員再雇用職員として経験を生かして引き続き活躍しています。

産前産後休暇・育児休業制度を男性1名を含む16名が利用し、年度中に6名が復職しました。

採用試験は9回に渡り開催し、計24名の方が採用されました。平成30年度中に採用された新入職員には3月末に3日間の入職時研修を行いました。

## 平成30年度 事業報告概要

平成30年度事業報告および決算報告は第305回理事会（2019年6月12日開催）を経て第71回評議員会（6月27日開催）にて承認されました。紙面の都合で、概要を簡略にご報告します。前号別紙に掲載のほか、事業報告書、決算報告・監査報告書等は当法人ウェブサイトにて公開していますので、あわせてご覧ください。

### ■平成30年度事業計画の取組状況

#### 1. 社会福祉法人としての組織力の強化

評議員・理事・監事等がそれぞれの役割を發揮し、ガバナンス体制を維持しました。また内部管理にかかわる諸規程を強化し、月次報告のフローを確立しました。

会計監査人監査、監事監査、内部監査（相互検査）を実施しました。会計監査人監査では無限定適正意見をうけ、法人運営や計算書類の適正性について客観的に担保されました。

#### 2. 社会福祉法人を担う職員の育成・働きやすい職場づくり

平成29年度に実施した職員の意向調査をもとに、時間単位年休の導入、育児短時間就業やシニア職員の雇用期間の延長等、就業規則を改正しました。また2019年度からの本稼働を目指して業務システムの更新を行い、全施設にiPadを導入しました。リフトの導入やアシストスーツ等の検討も着手しました。

研修は、法人主催の18講座に対し延534名が参加しました。法人の理念、内部管理の理解から、運営規程に基づく研修やスキルアップ研修等を実施しました。またICTの活用の際に求められる情報セキュリティ研修を行いました。

#### 3. 社会福祉法人として家族支援のための地域の拠点となる

泉苑・緑苑・あさひ苑の地域包括支援センターとしらとり・たっちの子ども家庭支援センター合同の主催にて、家族支援情報交換会を開催しました。2回の開催で、自治体や社協、他施設等の関係機関から延47名、法人職員が延25名参加し、利用者ごとに連携した三世帯・四世代にわたる家族支援について情報交換し、学びあいました。

### ■各施設の取り組み（高齢施設）

泉苑…昨年度に引き続きご利用者の過ごし方を見直し、移乗リフトなど福祉機器を活用できる空間づくりに取り組みました。しらとりと合同で行う季節行事も定着し、ご家族も多数参加され、ご利用者にも喜ばれました。通所介護と居宅介護支援では利用者ニーズを探るアンケートを実施し、地域で求められる食事サービスの強化や認知症対応型通所介護の見直し等を実施しました。

あさひ苑…介護予防から在宅サービス、施設サービスと継続する支援を心掛け、地域のよりどころとしての事業を展開しました。地域包括支援センターと認知症対応型通所介護を中心に認知症高齢者や介護者を見守る地域支援を行いました。開設25周年記念事業を行い、地域のみなさまにあさひ苑を体感していただきました。

緑苑…生活の質の向上に向けて環境や援助方法の検討しました。口腔リハの医師の指導を受け、食事形態や介助方法を見極め、機能訓練指導員や看護師、介護員が連携し食事の際の良い姿勢の維持に取り組み、安全で美味しく口から食べていただくケアを実践しました。地域交流スペースでは、安心シニア塾をはじめ、昼食会や映画等のサークル活動等、活気あふれる地域の居場所として定着しました。

かんだ連雀…千代田区の補助を受け、特養の居室の空調機器の入替を実施しました。個別空調になったため、ご利用者のご希望に応じ、より細かい温度調節を行えるようになったほか、1階の改修工事を実施し、しらとりの運営による子育て支援事業を開始しました。また千代田区が実施した腰痛軽減事業に参加、介護支援ロボット「HAL」のモデル施設となり、半年間試行しました。

かがやきプラザ相談センター…相談者の課題に対して、同じ建物内に在宅支援課、社会福祉協議会、九段坂病院があるという利点を生かし、有効な解決の道筋を見出すことができました。法人企画の相談員研修に参加し、相談センターの業務の基盤となる相談援助技術の向上に努めました。

岩本町…ケアハウスとグループホームでは、食事係と連携し、おやつ作りや昼食づくりなど、食を通じた五感のケアに取り組みました。通所介護では個別機能訓練、ショートステイでは生活機能向上訓練を意識した活動を行いました。多目的ホールを中心に介護予防事業（高齢者支援事業）や季節の行事や活動を行い、地域のみなさまが大勢参加されました。ショートステイやデイサービスの空情報を毎月発信、施設のFacebookページ開設等、積極的に広報に取り組みました。



平成30年度

事業報告および決算報告

（概要説明）

前号別紙にて事業実績や決算報告をご報告しましたが、今回は概要についてお知らせします。

かんだ連雀 (すみれ会) ~「8050問題」を考える~

かんだ連雀では、千代田区社会福祉協議会と共催で、平成29年より『すみれ会』というボランティア活動を行っています。

すみれ会は、住み慣れた地域で自分らしい人生を全うできるようなお手伝いを目的に発足されました。介護保険では、高齢者が生活を送る上で自身ではできない事への支援を行っています。先祖により支援できること出来ないことがあります。先祖のお墓参りをしたい。洋服を買いたい。落語を見に行きたい。人生を送る上で必要な生きがいは、介護保険でお手伝いできない事が多くあるのです。すみれ会は、そんな『楽しいひと時』や『生きがい』を提供するような活動を行っています。毎月第4火曜日13時30分からすみれ会定例会を開催し、神田地区に住む高齢者向けのボランティア活動を検討したり、振り返りを行っています。また高齢者に多い病気や介護保険制度等の勉強会も行っており、知識を深めながら楽しく活動しています。ボランティアには、地域の方をはじめ企業や学生と幅広い年齢層の方々が参加してくださっています。写真は、地域の方の『昔、毎日のように通っていたお店に「コーヒー」を飲みに行きたい』というご要望に、近隣の大学生(すみれ会会員)ボランティアが同行し女子会をした時の写真です。

(高齢者在宅サービスセンター長 峯 俊美)



2019 多摩同胞会の地域公益活動

多摩同胞会では各事業所でさまざまな地域公益活動を展開しています。今回はかんだ連雀のすみれ会と府中市内支援センター(泉苑・あさひ苑・緑苑・しらとり・たっち)が取り組んでいる「家族支援情報交換会」の活動について報告いたします。

第4回家族支援情報交換会 個別の事例に学ぶ家族支援の重要性 ~「8050問題」を考える~

多摩同胞会では、「家族を支援する」ことを理念として高齢児童の分野で事業を行っております。支援活動を通じて家族の抱える課題が複雑化し、一人一人が地域の中で孤立し、課題が見えにくくなってきたと感じています。このような地域の課題を受けとめ、ごご連携し、解決に向けた支援を組み立てることができるか、民生委員・府中市社会福祉協議会・各専門相談機関の皆様と、当法人職員と一緒に考え、つなげるための情報交換会を行っております。

2019年7月18日(木)、泉苑4階ホールにて第4回目を開催いたしました。第1地区(あさひ苑・緑苑担当)、第5地区(泉苑担当) 民生委員(26名)、関係機関(15名)、法人職員(23名) 合わせて64名の参加者となりました。今回は、今までの話し合いの中で何となく出ていた「8050問題」(80代の老親と支援を必要としている50代の子)について、地域の実情を報告し、前回は参加していただいていた府中市障害者福祉課及び市内4か所の障害者地域生活支援センターの方もお招きし、活発な意見交換が出来るようになりました。

はじめに、障害者地域生活支援センタープラザと権利擁護センターふちゅつ、泉苑包摂が連携して支援している「8050問題」の事例紹介を行い、その後グループで情報交換しました。参加された地区民生委員からは、「せっかかない話し合いだったのに、もっと時間があったら良かったわ。」という厳しいご意見をいただきました。今回行った情報交換会のキーワードは「支援者側が制度を盾にした垣根を作らない。」でした。

(府中市地域包括支援センターあさひ苑 清野哲男)



施設 だよい



令和の秋は：



ようやく夏の暑さも和らぎ過ぎやすい季節となりました。秋のお楽しみは何でしょうか。それぞれの施設で迎えた令和の秋をお伝えいたします。

連雀

うなぎ、さんま、まつたけ、さつまいも…

かんだ連雀では今年の夏の夏の土用の丑の日の夕食に、いつもより少し立派なうなぎの蒲焼きを提供しました。ご利用者の皆様に暑い時期を元気に乗り切っていたらと想いつつ、精一杯美味しいものを作りました。その甲斐あって、大変喜んでいただくことができました。中でもうなぎが大好物なAさん。

「なに食べたいですか?」とお聞きする。いつも「うなぎ。うなぎが好きなんだよ!」

今回お出ししたうなぎも「待ちに待ったうなぎはやわらかいしホクホクとしていて美味しいね」と、とても喜んでくださいました。またBさんからは「この食事はたくさんのお食材が使われているね。いつも楽しみにしているのよ」とお褒めのこぼれ。

これからは秋ならではの食材が出てきます。栗に秋刀魚、さつま芋、きのこ、ぶどう…。日々の食事に旬の味覚を盛りこんで、皆様に喜ばれるお食事を作ります。

(管理栄養士) 田尻早季子



緑苑

お・す・き・な・ふ・く・は… 秋の七草

今年本格的な夏が来るまでは、天気も不安定で気温もなかなか上がりません。秋の七草が開花し、皆を驚かせました。秋の七草と言えば、おみなえし・すすき・ききょう・なでしこ・ふじばかま・くす・はぎですね。そのうち、萩・桔梗・撫子が屋上庭園にかわいい姿を見せてくれました。

花に「かわいいご利用者が教えてくれました。」「秋の花言葉は「想い」なのよ。意味深でしょ。女郎花は、あなたの奥様のような「美人」なの。桔梗は「変わらぬ愛」だったかしら。あとは忘れてしまったから調べておいてと。…」

調べさせて頂きました。尾花は「活力」で、葛は「根気・努力」撫子は「貞節」で藤袴は「思いやり」だそうです。覚えていた花言葉を考えて、さすが女性だなと思っただけです。緑苑の農園には秋の七草以外にも、ぶどうがたわわに身をつけていて色も付き始めました。また、農園で収穫した里芋で芋煮会を毎年企画していますが、自分たちで手をかけた野菜で作ると、なお一層とてもおいしく感じられホクホクの笑顔が緑苑一杯に咲き乱れます。

支援員(介護福祉士) 平岡貴弘



しらとり

やっぱり 食欲の秋

読書の秋、スポーツの秋など楽しみが多い季節がやってきました。それぞれ思い浮かべる秋があるとありますが、しらとりには食欲の秋がやってきそうです。

しらとりの保育と学童では、食育の一環として子どもたちと一緒にプランターや中庭の一面を使って野菜の栽培をしています。すでに夏野菜を収穫し、みんなで美味しくいただきました。いつもは苦手な野菜でも自分たちで育てたものだと味もピカイチのようで、「これは僕が取ったんだ」と嬉しそうに食べていました。

秋になり、そろそろ庭のさつま芋が収穫できる頃になってきました。ホクホクなさつま芋をみんなで食べるのが今からとても楽しみです。

これから子どもたちには、みんなで作って食べる楽しさや、美味しいものを共有する嬉しさをたくさん体験して欲しいと思います。

(保育士) 菅沼由香



たち

東京の秋、府中の秋

寒い地方で育った私にとって東京の秋は衝撃的でした。寒い地域では、紅葉は足早に完成して翌週にはすべて落ち葉になり、すぐに冬が訪れて天候も悪くなります。短い秋を楽しむにはのんびりしていられます。しかし、東京ではさらさらした太陽の光に輝く銀杏などを長く楽しむことができます。この頃は、こちらでの生活が長くなり、油断して冬への備えが疎かになりがちです。同じ日本でも地域によってその風景はいろいろです。なつちは商業ビルの中にあるので、ご利用者に季節を感じながら過ごしてもらえようように飾りつけを季節にあわせて変えたり、ひろばのスポットタイムにも必ず季節の歌を盛り込んでいます。楽しみながら、秋を感じてもらえたら嬉しいです。駅前であっても緑豊かな府中でお仕事をさせていただいて15年目。今年も大國魂神社前のけやき並木の紅葉が楽しみです。

相談員 (社会福祉士) 伊能春美



泉苑

秋へむかって、準備万端

泉苑認知症対応型通所介護事業、通称「たんぼぼ」は、泉苑の敷地内にある障がい者用モデル住宅を改装し、2年半前にスタートしました。

「たんぼぼ」では月一回おやつ作りを行っています。今年の夏は旬の果物をすったり、絞ったりし氷や冷たい牛乳で割って涼を味わいました。

先日、和室の天袋を整理していると、しばらく使っていなかったホットプレートのを発見。早速、中身を確認してみると、とても綺麗な状態で電源も入りまだ使える状態でした。

いつでも使えるようにホットプレートを洗って秋から冬にかけてさつま芋やリンゴを焼いて心も体も温まるおやつを作りたいと今から楽しみにしています。

介護員 (介護福祉士) 天野英恵



岩本町

柿食えば 笑みがこぼれる 岩本町

高齢者施設での二天イベントといえば、敬老祝賀会とお正月です。食事係は、この二天イベントに向けて、2〜3か月前から準備を始めます。ご利用者は毎日の食事を楽しみにしてください。が、行事の時はより楽しんでいただけよう、試行錯誤し美味しい御膳を提供できるように努力します。昨年の敬老祝賀会の御膳の中に柿の練切を入れると、本物の柿と勘違いされた利用者さんは皮をむこうとして「よくできてるから間違えちゃったわ」など、皆で食事をしながら楽しい時間を過ごしました。「秋と言えば、子供を連れて芋堀によく行ったわ」「紅葉狩りにも行ったことあるわね」と、食事をしながら昔の良き思い出を沢山話してくださいました。来年も皆さんと元気で敬老の日をお祝いできることを楽しみにしています。

(調理師) 高橋香織



きずな

絵本の秋

外に出ればまだまだ汗ばむ季節ではありますが、少しずつ秋の訪れを感じている頃。

プールも終わり、子どもたちは有り余る体力でお散歩や戸外あそびをおもいっきり楽しんでいきます。室内では画用紙に色鉛筆で沢山の絵を描いている姿や図鑑で虫を観察している姿など、それぞれの秋を楽しんでいるようです。

最近のお気に入りには、絵本タイム。絵本を自分で取り出しページをめくったり、保育者の膝にちよこんと座り「読んで」と持ってくる子どもたち。人気は「だるまさん」シリーズ。

リズムカルに進んでいく話に「次はどんなだるまだろう?」と期待を膨らませながら、絵本に出てくる「だるま」と同じ表情をしながら読むと、子どもたちも一緒に真似したり「絵本って楽しいな」と感じる一冊でもあります。

絵を見ていろいろと想像したりコミニケーションをとりながら多くのことを共有していきたいです。

(保育士) 大谷千夏



あさひ苑

歩いて歩いて 長寿の秋

「あなた、何往復目?」「私は3往復目よ!」

「私はもう休むわ」と、元気な声があさひ苑1階の全長50m以上の長い直線廊下から聞こえます。

あさひ苑デイサービスのご利用者の平均年齢は86歳、月曜から土曜までの毎日ご利用者の皆さんが運動や歌、手工芸などの活動に参加されられています。それだけにとどまらず、いつからか長い直線廊下を自主的に散歩するようになりました。お昼休みの時間や訓練の終了後、1人で黙々と歩かれる方から2〜3名で一緒に歩かれる方まで、散歩の形はさまざまですが、いきいきとした生活を続けていくという積極的な姿があさひ苑の廊下ではみられます。

通所介護相談員 (介護福祉士) 田口宏樹



# ボランティア紹介

## あさひ苑

### 魔法の壁

あさひ苑1階に、写真の展示コーナーがあります。

〈写真(シャドウ)〉というグループの皆様の作品です。本業は写真家や写真の講師という方々が、ご自身の作品を提供して下さっています。

春夏秋冬の四季をテーマにして年4回、写真を入れ替えています。自然の風景、地域のイベント、動物、国内外を問わない写真です。思わず見入ってしまう！：新たな発見をしたり：昔を思い出したり：。まるで魔法のような場所です。あさひ苑にお越しの際にはぜひご覧下さい。

(地域包括支援センター 石丸哲也)



# 御寄贈・御寄付ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

朝日町会 井田千昭 井上バレイ団 大沢良三  
ちよだボランティアセンター デイスクガレッジエンター  
テイメント事業ユニット入江敦朗 東京都食肉生活衛  
生同業組合 東京ヤクルト国分寺センター 日本イリュ  
ージョンエンターテイメント協会winz 中山鏡子

なでしこフレンズ 星野晃 本間啓一  
ボランティア農業うらの畑  
第五地区民生委員児童委員協議会  
(2019年6月~2019年8月)

# ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

青木晃子 青野まり 赤田美恵子 赤林好子 朝日町町  
会 阿部才千代 荒井迪子 有本陽子 石井涼香 石井  
久子 石井宏 石坂トメヨ 市川知子 石井健 井出睦  
子 稲田緑次 井上智美 今橋博子 上田美紀子 上野  
時子 植松八千代 魚川桂子 内保三重子 内堀美喜  
梅原薫 梅原光洋 卜部和子 上床見代 海老澤信子  
遠藤伊代 遠藤みつよ 遠藤陽子 大島庸子 太田久美  
子 大坪イネ子 大野文子 大場正子 大原捷子 大屋  
康夫 大類浩平 岡田基子 岡智恵 小川健治 沖田眞  
南人 奥山亜子 奥山チヤ子 オコサの会 尾崎節子  
尾崎絃之 尾崎佐和子 音楽園 おはなし夢くらぶ 小  
柳亜樹子 折田浩一 海江田紀久子 鹿島キチ 鹿島千  
重子 船野美千代 加藤栄子 加藤静 加藤規子 加藤  
美美子 加藤洋子 金指真美 金子武仁 神山しげ子  
亀岡紀知信 川崎雅人 川住弥生 菊池和彦 菊地裕子  
さずなの手・江戸川 ギター演奏による歌の会 北島美  
恵子 北田悦江 木谷教子 木森哲 具嶋郁子 國定毅  
久保田摩耶子 久保紀子 隈元与志恵 蔵内睦子 栗原  
宏子 グレースと宝石 黒川澄子 黒川トヨ子 桑田智  
禰式典 弦間まさ 小池昌子 小石暁子 小出晨一 小  
出由美子 黄美華 石澤圭子 小久保桂子 児島章子  
小島ユミ子 小島百合子 後藤祐輝 小林恵子 小林幸  
代 小林照子 小林真弓 小林道子 小林わか子 駒ヶ  
嶺奏秀 是永美代子 今野幸子 斎藤千枝子 酒井和子  
坂本越子 佐久間桂子 佐々木英子 佐藤イソ 佐藤公  
子 佐藤なか子 佐藤初江 佐藤秀和 佐野田鶴子 佐  
山香織 椎名君代 塩澤佳津子 重田文子 七字藍子  
品田啓子 島津たか子 清水文枝 清水光子 下江美鈴  
下染屋雛子 下宏子 写真 白糸台小学校合唱部 進藤  
登美子 新村信子 杉本節子 鈴木アキ子 鈴木暉子  
鈴木瞳 鈴木由美 鈴木好枝 鈴木好子 スターバック

スコヒー スワン 瀬戸貞子 高倉祥子 高桑なをみ  
高橋恭子 高橋ヤヨイ 滝沢冷子 多喜田操子 竹内由  
美子 田島みよ 田中典子 谷敦子 谷澤ミツ子 田部  
美智子 玉城七海 玉城美空 多磨町会 田村知江子  
丹野由紀子 千葉芳子 土屋とき枝 堤明 寺町律子  
童謡唱歌の会 戸島正子 柄谷さき 中垣春代 長澤道  
子 長島広美 中井啓子 中田夏枝 中野渡とみ子 中  
村千代子 中村美佐江 中村恭俊 中山伊久子 中山寿  
美 西村珠美 二宮澄子 根岸路子 野坂昭弘 能登す  
み子 萩野真理子 橋場昭 長谷川和子 長谷川志津子  
早矢仕房男 原田君枝 原田園彦 原田康子 原俊江  
樋口よし子 久島なる子 樋口留美 日高千教子 平泉  
順子 平岡美津子 平松ふじ子 広木さく江 深澤眞紀  
深堀紀美子 福田佐代子 藤記節子 藤田京子 府中け  
やきの森学園 船岡栄子 舟見三佐子 古園鞠子 保坂  
良子 星野若佐 細木南美 堀江深雪 孫田一昭 政所  
優季 町田知行 松岡七七子 松下朗 松下 健 松田  
恵子 丸田のお子 三上英一 三坂和子 三輪孝子 宮  
崎清子 宮本康子 村井福子 村岡栄美子 明治安田生  
命 本野幸子 紅葉丘3丁目会 紅葉丘2丁目会 百瀬  
洋子 守屋貴美子 森脇敦子 八重の会 矢島道子 柳  
澤梅子 山崎キヌ子 山田一九 山田ケイ子 山野栄治  
山本恵美子 山本峯子 山森貞枝 鍾澤千寿子 ゆうか  
ファミリリー ユーロクリア・バンク 横尾美知子 横山  
真智子 吉岡秋夫 吉竹佐紀 吉田陸子 吉野美咲 吉  
本栄子 米山秀子 るりまつりの会 朗読赤十字奉仕団  
ワイビオホアラハ 若杉会 若葉会 脇山令子 和駒会  
渡辺一恵 渡邊恵子 國定毅 渡邊弘子 渡辺浩美 渡  
邊房子 渡辺守

(2019年6月~2019年8月)

# 編集後記

今年はずしくアウトドアな夏を過ごしました。秋は本をたくさん読むことを目標にインドアに過ごしたいと思っています。(ますな 高橋風子)

「令和になったら」と様々なことに言いわけをしながら過ごした4月。気付けばもう秋。さあ、朝ウオーキングは来年から。(たち 長谷川朝生)

プールに川遊びにキャンプ。学童の子ども達と毎日全力で遊び駆け抜けた夏でした。(しらとり 吉田智咲)

そろそろ衣替えの季節、箆笥の整理をして衣類だけでも断捨離したいです。(岩本 松本幸二郎)

もうそろそろ暑さも段落カメラ片手にレジャーに行こうか楽しみです。(泉苑 石川愛)

消費税10%まで1ヶ月を切りました。何を買い替えるか悩んでいます。(泉苑 南 佳代)

14年間一緒に暮らした愛犬が亡くなりましたが、楽しい思い出が一杯。感謝です。(緑苑 平岡貴弘)

冷房嫌いの私は、真夏でも長袖を着てエアコン対策をしています。これからは過ごしやすい季節になり、職場の温度も一定に保たれると思います。(あさひ苑 高野幸枝)

暑さに負けてなかなか外に遊びに行けなかった今年の夏。その分秋はほとんど遊びに行きたいなと思っています。(事務局 井坪香織)

子どもたちと一緒に学ぶ夏でした。いくつになっても知識を得て世界を知ることは楽しいことだと思います。(事務局 青木志乃)

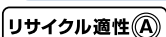
初富士登山に挑戦しました。下山した時の達成感は何にも代えがたいものでした。記念すべき令和元年に貴重な経験ができました。(編集長 上野廣美)

# 介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

●泉苑 老後支援 24時間  
☎0120-6540-24

●あさひ苑 福祉につこり 24時間  
☎0120-2942-24

法人ウェブサイトはこちら  
Facebook 更新中  
採用情報サイトはこちら



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

